

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.11.19 vol.41

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

日ごとに、秋の日差しが  
初冬の色へと変わりつつある今日この頃、  
皆様お変わりございませんか？

この季節になると、我が家の小さな庭には、  
毎年ムクドリの夫婦がやって来ます。

早朝、干し物竿の上でムクドリさんが、  
「やって来たよ」とアピールする鳴き声で  
目が覚めました。

「今年もお帰りなさい」  
「はい、大好物のみかんだよ」餌台に置くと、  
ピーピー鳴きながら喜んで食べていました。

皆様の所には、どんな季節の便りが届いているでしょうか？

さて、本日から「今を生きるスターリイマンの物語」の  
第14話をお送りさせていただきます。  
最後までお楽しみいただけましたら嬉しいです。

---

☆第14話「今を生きるスターリイマンの物語」  
～志で国民が納得して納税できる社会を創生する～  
JSKグループ・TFS国際税理士法人 理事長  
日本納税者協会 共同代表 山崎 泰 氏

第1章 ～山崎泰氏との出会い～

---

私（私たち家族3人）が、山崎泰氏と初めてお会いしたのは、  
今からちょうど5年前の2009年10月31日でした。

この日、ホテルオークラでは、松下幸之助氏の志を受け継ぎ、  
この日本の国を志でよくして行こうと立ち上がった皆様が、  
「よい国つくろう日本志民会議」を設立する大会が開催されました。

私たちは、「志を持って生きる国民による実践発表」の中で、みんなの心と心をつなぐアートで日本中の志をつないでいく活動として会場にお集まりの1500名余りの皆様に発表をさせていただき、はせがわが「志の旅路」というスターリィマンの絵を描き、私が物語を創作し、娘が朗読を行いました。

◎当日の様子の関連ブログ/大切な日本の未来のために◎

<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/2009/11/post-2d27.html>

この大会の発起人は、イエローハット創設者である鍵山秀三郎氏。

そして、大会の代表と志民運動本部の本部長を兼任していたのが、松下政経塾の塾頭を17年間務めた後、若者たちに志を教えるために、松下電器を退職前にお辞めになり、志ネットワークを創設した上甲晃先生。

その上甲先生を支えていたお一人が、TFS国際税理士法人 理事長の山崎泰氏でした。

JSKグループ・TFS国際税理士法人  
<http://www.tfsnavi.jp/pc/>

松下政経塾7期生である山崎氏は、常に上甲先生に寄り添い、会場全体に目配りしながら、多くのスタッフや関係者にテキパキと指示を送り、会の運営の重任を果たしていらっしゃいました。

その上、私たちが安心して発表できるように始終笑顔で細やかに気遣ってくださって、色々とサポートしていただきました。

山崎氏は、私たち3人にとってとても大切な方であると、その時に直感しました。

その後も、私たちの事をいつも気にかけていただき、お会いする度に、温かな笑顔でご挨拶してくださいました。

2011年。東日本大震災で被災した子ども達に紙芝居を贈る活動を始めた私たちは、東北での活動の一步として、同年の8月上旬に上甲先生の志ネットワークの青年塾の皆様と陸前高田や気仙沼大島にてご一緒させていただきました。

それから、上甲先生には何度も励ましのお便りをいただき、その都度、私たちは前に進む勇気や力をいただきました。

そして、紙芝居の活動を息長く継続していきたいという  
私たちの想いを受け止めてくださった上甲先生は、  
山崎氏に力になってあげてほしいとお願いしてくださったのです。

早速、山崎氏の元を訪れた私たちは、  
現状や、今後続けていく上で不安に思っていることなどを  
お話させていただきました。

山崎氏は、真剣に私たちの話に耳を傾けながら、  
一つ一つの問題に対する解決法を丁寧に導き出すと、  
活動の基盤となる一般社団法人を設立することを  
提案してくださいました。

こうして、2012年11月5日に、娘が代表理事となって  
「一般社団法人スターリィマンからの贈りもの」が  
設立されるに至りました。

山崎氏には、一般社団法人の代表監査として関わっていただくだけでなく、  
私たちの活動を多方面にわたりご紹介いただいたり、  
山崎氏が会長を務める「四谷倫理法人会」の  
経営者モーニングセミナーで講話させていただいたり、  
困ったときは、いつでも親身になって相談に乗ってくださっています。

そして、先日2014年11月5日に、設立2周年を迎えました。  
山崎氏に背中を押していただき、支えていただいたおかげで、  
活動の趣旨にご賛同いただいた方々に会員としてご支援いただき、  
心ある皆様のお力添えのおかげで、今日まで継続する事が出来ました。  
数え切れないご恩に感謝でいっぱいです。

上甲先生との出会いがきっかけで手にした1冊の本。  
「志を教える 松下幸之助の人づくり」(致知出版社)には、  
“志”について次のように記されています。

“志”とは 自分だけの利益を追い求める  
野望・野心を超えて みんなの利益を求める心です

恩師である上甲先生と共に、松下幸之助氏の志を受け継ぎ、  
松下政経塾で学んだ山崎氏は、新たな志を果たすために  
今年2014年4月に『J S Kグループ』及び、  
『日本納税者協会』の共同代表になりました。

その創設への思いを綴った山崎氏のメールマガジンを  
ここでご紹介させていただきたいと思います。

-----

松下幸之助翁の最晩年に薫陶を受け、  
松下政経塾で、寝食をともにした同志と力を合わせて、  
税理士・公認会計士・社会保険労務士・行政書士  
不動産鑑定士・FP・宅地建物・取引主任者等を擁する  
「士業コンサルティング・ファーム」として、  
税務・会計・財務・経営・人事労務・法務・マーケティング・営業支援まで・・・  
ワンストップで、幅広くお役に立たせていただきたいと思います。

経営者の重責、将来の夢、経営の痛み、税の重さ・・・  
日々、中小企業を支え、同じ想いで、ともに悩み、生きる職業会計人として、  
『国民が納得して納税できる社会を創りたい！』

松下幸之助翁が、生前に目指された『日本納税者協会』を、  
税に生きる職業会計人の使命として、公益社団法人化をも目指して立ち上げます。

人生には、今を生きる戦略ともいえる『ヨコ軸』とともに、  
我、何のために生きるのか、自身の生涯を貫く使命ともいえる  
『タテ軸』があると思っています。

ときに借金をしてでも、真面目に納税する日本の納税者が、  
本当に納得のいく社会！を創っていきたい・・・  
私の人生の『タテ軸』、生涯を貫くテーマです。

-----

山崎氏は、納税者（特に中小企業）を  
命がけて支えることを自らのミッションとし、  
100年後、200年後の日本の輝く未来を創る  
スターリィマンの一人です。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第14話の第2章は、11月29日(土)配信予定です！

---

山崎泰先生との出会いは、いかがだったでしょうか？

山崎先生との出会い、それは私たちに一番足りない  
「経営」を学ぶための大切なきっかけでもありました。

先生の書かれた著書「あなたの会社を強くします」では、  
中小企業の経営に欠かせない会計事務所さんや税理士さんとの  
真のお付き合いの仕方が分かりやすく解説されています。

<http://www.php.co.jp/books/detail.php?isbn=978-4-569-79006-0>

皆様からいただいた有り難い対価を  
少しでも世の中がよくなるように、  
有効にお役に立てていきたいと心から思いました。

経営についてだけでなく、山崎先生のお人柄を想った時、  
なんて私たちは、本当に素晴らしいご縁に恵まれて、  
毎日を生きられるいるのだらうと心から思いました。

幸せを感じる時は、人によってそれぞれ違うかも知れません。

しかし、人と出会い、笑顔に出会い、喜びと出会い、  
人生には予想もつかない色々な出会いがあって、  
今日はどんなに辛くても、苦しくても、悲しくても、  
乗り越えた先には、幸せが未来が待っているんだなあと  
つくづく思います。

さあ、明日はどんな出会いが待っているのでしょうか。

それでは、今回は「今を生きるスターリィマンの物語」の  
第14話の第2章をお送りさせていただきます。

配信は、11月29日(土)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

## ☆後 記☆

---

一昨日の17日は、第15話でご紹介予定の  
玄侑宗久氏にインタビューさせていただくために  
福島県三春町の福聚寺（ふくじゅうじ）にお伺いいたしました。

三春町は、瀧桜で有名な地でもあります。  
心洗われるような玄侑氏のインタビューの後に、  
三人で瀧桜を観に行きました。

穏やかな春のような暖かさに心癒され、  
一瞬、身も心も自然と一体になったような  
心安らかな時間をいただきました。

桜の花は見ることは出来ませんでしたが、  
枝の美しい姿に出会えたことに感謝いっぱいでした。

その内、スターリィマンがこの三春の瀧桜の風景に  
佇んでいる絵とお話が描いていくことになるでしょう。

今週はもうお一人の今を生きるスターリィマンのインタビューにお伺いさせていただく予定です。

尚、前回の第13話でご紹介させていただいた森本先生の著書プレゼントは、ご応募いただいた5名の方々にご送付させていただきます。

ご応募をいただきました皆様、誠にありがとうございました。

さて、今週末から3連休になりますね。段々と冷え込むようになってまいりましたので、お身体にお気をつけて素敵な休日をお過ごしくださいませ。

追伸  
おかげ様で、2015年のカレンダーの在庫が残り少なくなって参りました。

時期的にはまだ早いかもしれませんが、引き続き、皆様のご注文をお待ちしております。  
<http://www.dream-hasegawa.com/about/calender2015.pdf>

カレンダーのご注文 <https://dream.stores.jp/#/>

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>  
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.11.29 vol.42

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

皆様、いつもお読みいただき、  
どうもありがとうございます。

今日も含めて、あと2日で12月。  
いよいよ2014年も締めくくりの時期に入りますね。  
いかがお過ごしでしょうか？

さて、毎年12月は、ISFネットグループさんの全国の事業所で  
クリスマスイベントを開催させていただいています。

3年目となる今年は、12月2日から22日までの間に、  
札幌、安城、呉、大阪、沼津、新潟、佐賀、沖縄、  
盛岡、仙台、福島、須賀川、いわき、青山、中野と  
まさに、北は北海道、南は沖縄までの  
大クリスマスツアーになります。

本当に有り難いです。

また、12月1日は常陸一之宮鹿島神宮の新・大祈祷殿に、  
3点の作品をご奉納させていただく予定です。

全スケジュールが予定通りに果たせますように、  
健康に気を付けて頑張ってくださいと思います。

皆様もよき年末年始を迎えられますよう、  
くれぐれもご自愛くださいませ。

それでは、「今を生きるスターリィマンの物語」  
第14話の第2章は山崎泰氏の家族の原風景です。

是非、最後まで楽しんでいただけたら嬉しいです。

---

☆第14話「今を生きるスターリマンの物語」  
～志で国民が納得して納税できる社会を創生する～  
JSKグループ・TFS国際税理士法人 理事長  
日本納税者協会 共同代表 山崎 泰 氏

---

## 第2章 ～山崎泰氏の家族の原風景～

---

---

Q1. ご家族のことを教えてください。

---

私は、父・山崎房雄と母・栢の長男として、  
昭和36年8月1日に生まれました。

兄妹は、10歳違いの妹の薫です。  
当社で、総務秘書担当をしてくれていて、  
いまだに頭が上がりません・・・

家族は、妻と高校生の息子と娘の4人家族です。

---

Q2.お父様のことを教えてください。

---

父は、大正15年5月31年生まれで  
千葉との深いご縁もあって、  
“房雄”と名づけられたそうです。

まさに昭和の年号とともに生きた父は、  
昭和20年、海軍所属で横須賀で終戦を迎えたのですが・・・  
戦時中の辛い体験からか、戦争のことは、  
あまり多くを語りませんでした。

父は、体もほっそりしていて、戦争で学歴も積めず、  
でもなんとなく面影が松下幸之助翁に似ていて、  
人の使い方は人情の驥尾（きび）に通じるものがありました。

「男なら負けるなよ」なんて長年言われ続けてきました。

父は印刷会社に勤めていましたが、私が生まれた時に  
今のままでは食べさせていけないということで  
昭和38年に独立して、印刷会社を始めました。

印刷工場には、山本五十六海軍大将が好んで使った言葉  
「やって見せて、言って聞かせて、させてみて、  
ほめてやらねば、人は動かず」の額が掲げてありました。

私が高校生になると、学校からまっすぐ親父の印刷会社に帰宅することも多く、親父とはよく二人で食事や銭湯に行ったり、布団を並べて寝たり、かなりの時間、男同士で一緒にいたように思います。

親父の会社の主な仕事は、官庁印刷でした。

当時、通商産業省工業技術院、通称「工技院」といわれた役所からの仕事が多く、例えば国会の想定問答集とかは…  
たいてい金曜夜に出て、月曜朝に納品。

あ～、中小企業というのは、土日も休みなくコツコツと働き上げて、仕事のミスなく納品していければ食っていけるんだ、そこに信頼の積み重ねがあるんだ、というのが…私にとって中小企業の痛み、商人の痛みのような原点です。

人間って真面目に休みなく働き続ければ、生きて行けるんだということを、親父は語ったわけではないけれども、寝ずに仕事をしている背中から教えてもらったような気がします。

私は、高校の頃から、父の印刷の仕事を手伝っていました。車の免許をとってからは、重い荷物を親父の代わりに持って、納品の仕事を手伝っていました。

役所の皆さんからも、だいぶ可愛がっていただきました。父は、私が開成高校に入った時は、めちゃくちゃ喜んでくれて、内心、東大に入って、通産省の役人になることを期待していたようで、早大に入った時は、あんまり喜んでもらえなかったような。松下政経塾に行く時は、それなりに期待してくれていたようですが…

父は73歳で他界しました。最期、東京女子医大に1年半近く入院をした当時、私は39歳で、都議会議員の2期目で会派の幹事長をしていました。

女子医大の入院病棟近くを通りかかると、都庁の運転手さんが、車の速度をゆるめてくれるのです。お父さんのお見舞いは…との気配りをしてくれるのです。

しかし、親不孝な私かというと…  
親父、おれは長男で、地方議員でもあるし、早く国会に行かなくちゃならないんだと。親父わかってきているだろう。

親父の見舞いはおふくろ、妹、女房、子供たちの仕事だから…  
そんな思いからか、運転手さんには「次の会合に」と告げて、親父が入院している病棟を通り過ぎたことも、少なくありません。

親父が他界したのは、平成12年3月20日の春分の日。  
最期は看取りましたが、草葉の陰から、  
「お母さんには親孝行しろよ！」と、親父に言われているようで、  
母には、親父の分まで親孝行しようと、深く反省しています。

よく家族揃って、父のお墓参りに行っていますね。  
母とは、毎年ボニージャックスのクリスマスコンサートへも。  
先日も、一緒にコンサートに出かけたら、  
二つ前の席に安倍昭恵首相夫人が座っていて、二人してビックリ。

毎朝、仏壇の亡父の遺影の前で、ブツブツ言いながら、  
家族が仲よく暮らしていけることへの感謝の気持ちを、  
親父に伝えています。

---

### Q3.お母さまのことを教えてください。

---

母は、昭和8年2月15日生まれで、  
出身は長野県の御岳山から5キロぐらい  
塩尻寄りにある奈良井宿です。

母は長野の田舎の7人兄弟で、  
長兄のすぐ次、2番目が母でしたので、  
長姉として、年の離れた兄妹には、  
母親代わりでもあったようです。

母方の祖父は、昔の鉄道局で、  
山梨県や長野県内で駅長などをして、  
その後、地方議員をしていたとも聞きました。

親父が亡くなった後、母親に家を建てて  
親孝行しようと思いました。

時同じくして、我が家でも子供たちが大きくなってきて、  
マンション暮らしの我が家は、部屋でバタバタする音がうるさいと、  
階下の老夫婦から怒られる日々。

家に帰ると、子供たちは抜き足差し足・・・  
あまりにも忍びなくて、自宅を建てることを一大決心。

でも、ひとつだけ決めていたことがあったんです。  
自分たちの家よりも、母親の家を先に建てるんだと・・・  
母としては親父との思い出がつまった家だったので、  
実際に建て替えできたのは、親父が亡くなって、5年後でした。

2年の間に、母親の家と我が家と2つも家を建てたのは、  
さすがにしんどかったです。

母親の家と妹夫婦の住まいを一緒にすることも提案したのですが、最終的には別々で、妹にはスープの冷めない距離に住んでいます。

母との連絡は、妹は1日数回、私は1週間に1回くらいでしょうか。やはり、息子はあまり役には立たないようで…

---

#### Q4. どんな幼少時代を過ごされましたか？

---

私が3歳の時に、東京オリンピックが開催。.  
四谷4丁目の交差点の所で、父は印刷機の機械を止めて、私にトップを走っていたアベベ選手を、肩車して見せてくれたそうです。

でも、さすがに3歳の出来事なので…  
父に悪くて、覚えてないとも言えず、  
覚えていると、自分に嘘をつくわけにもいかず、  
父が亡くなるまで、言えませんでした。

私の世代は、なんといっても「巨人の星」  
星飛馬を見て育て、キャッチボールを一緒にできる弟が  
どうしても欲しかったんです。

母が妊娠した時、ぼくにとって兄弟は「弟」しかないと、  
トイレの柱に「泰10歳。弟0歳」とまで刻みこんでいたくらいです。

しかし、出産の報を聞いて、都立大久保病院に行ったら、  
弟ではなくて、妹だった…

「ボク、妹なんかいない！」と言ったら、  
さすがにその時は、親父に激怒されました。

でも、妹！可愛いかったんです！！  
私が通っていた中学校の部活が終わると、  
バスケ部の仲間と一緒に妹の通う信濃町保育園に  
迎えに行くのが、日課のように楽しみでしたね。

今では、妹で本当に良かったと心から思っています。  
母親に親孝行できるのも、妹に支えてもらっているおかげですね。  
本当に感謝しています。

---

#### Q5.最初に夢を持ったのはいつですか？

また今の夢を志されたきっかけは何ですか？

---

小学6年生の時に、小学生の夢を語る  
ラジオ番組に出演したんです。

「将来は何になりたいんですか？」の質問に、  
当時、田中角栄総理大臣の日本列島改造論が出た頃で、  
口から出まかせに、「総理大臣」と言ったんです。

親父が官庁関係の仕事していたこともあって、  
思わず口から出たのかもしれませんがね。  
もしかしたら、松下政経塾に入った原体験かも…

早稲田大学では、大学、大学院と法学部でした。  
政経塾を知ったのは、たまたま大学の友人から  
「政経塾というのがあるらしいよ」と、  
説明会のパンフレットをもらったことです。

松下幸之助さんが、政経塾を作ったのは昭和54年。  
幸之助さんは御年85歳で、日本の将来が心配で夜が眠れんと。  
「ああ、この世の中にこんな人がいるんだなあ…」と。

松下幸之助翁、経営の神様に、自分の人生を賭けてみようと。  
最終面接まで行けば、幸之助さんに会えるかもしれない、  
そんな思いで、政経塾を受験しました。

大学の先生には、大反対されましたね。  
将来政治家になっても良いから、  
まずは弁護士にしても、税理士にしても、会計士にしても、  
きちっとした士業としての専門性を持ってからにしろと。

政経塾がほぼ内定が決まっていた時に、  
せっかくだから就職活動も体験してみようと、  
当時、日本で一番人気のある企業を記念受験してみようと思って、  
東京海上に行きました。

10月1日解禁日、それもそっと最後に  
面接だけ受けてみようと思って行ったのですが…  
こともあろうに、間違っ、内定が出てしまいました！

さすがに、すぐに断るのはまずい…  
と思って、ずるずるしているうちに、  
当時、東大のヨット部出身で、  
私を気に入ってくれた人事課長に、恐る恐るお詫びに。

無一文になるかもしれないが、  
松下幸之助の夢に賭けてみます！と言ったら、  
「君なあ、世の中なめちやいかん」と怒られましたね。

しかし、私のことですから、  
入社しても4～5年で辞めていたと思います。  
政経塾に集うメンバーは、かなり個性的ですから、  
これで良かったと…

---

Q6.これまでの人生の中で一番大変だったときのことを教えてください。

---

31歳で都議会に当選し、誰からも頼まれていないのに、  
なぜか30代で国会へ…みたいな、出世競争のような意識がありました。

平成12年3月20日に親父が他界して、傷心でしたが、  
翌年の参院選に挑戦しようと、  
次の都議選には出馬しないことも心に決めていました。

当時は、小渕内閣。  
景気が悪く、各都道府県の信用保証協会を活用して、  
国が予算をつけてまで、中小企業が金融機関から借りやすいようにして、  
中小企業を支えたんです。

保証協会には、都道府県が予算付けをするので、  
予算を付ける権限のある議会、すなわち  
国会議員や都道府県議会議員は、  
極めて保証協会に影響力がありました。

当時、私は都議会の無所属会派の幹事長をしていて、  
間近に迫った参院選もあり、そんな中で、  
都議会を揺るがした信用保証協会事件が起こりました。

国会議員や地方議員が、保証協会に対して  
無理な口利きをしていたのです。

当時、参院選も控えて、地元の陳情等は、  
建設大臣の秘書まで務めた年長の秘書さんに任せきりだったことを、  
深く反省していますが…

青天の霹靂で、口利き議員の中に、  
私の名前、事務所名があったのです。

「税の使い道は民主主義の根幹」だという思いで、  
政治の世界に入ったにもかかわらず、  
私の名前を使った口利きで、中小企業が返済不能になって焦げ付いたら、  
税金を使ってでも代位弁済することになる…

その後の裁判では、私自身は一本の電話すら  
お願いしていないことが明らかになったのですが、  
事務所の出来事とはいえ、

あまりにも言っていることと、やっていることが違う。  
道義的、社会的な責任をとろうと、  
都議会を辞めて、参院選出馬も断念しました。

でも、潔く辞めたはいいものの、  
次の日からやることがないんですよ。

昨日まで、毎朝公用車が迎えに来てくれた、  
都庁の目の前のワシントンホテル隣のマンションに住んでいながら、  
もう都議会に行けないのですから…辛かったです。

この時ばかりは女房は心配しましたね…  
8階のベランダから飛び降りるんじゃないかと。

親父も亡くなって、仕事も失った。  
茫然自失の日々でした。

その時、政経塾以来の恩師・上甲晃さんからいただいたハガキに、  
命を救われました。

『難を人生の宝に』と書いてありました。

「難有」とも書いてみると…、  
右から左から、上から下から、ひっくり返してみると。  
「有り難い」だろうと。

苦難・困難は、自分の選んだ選択というもの。  
その難を嘆いて生きるのか、難を人生の宝だと思って生きるのか、  
君自身のこれからの生き方がかかっているのだぞと。

人生のどん底で、一番辛いときに、  
この言葉を送っていただいたのです。魂に入りました。

上甲さんからいただいたハガキを、人生の支えのように、  
毎日毎日手帳に挟んで、肌身離さず持っていました。  
くじけそうになると、いつも見ていました。  
もちろん、このことは、上甲さんも良くご存知です。

得意のときには、近づかず。失意のときには、そっと寄り添う。  
まさに上甲さんから、こんな生き方を教わりました。  
私自身、そっと寄り添われる有り難さが心底分かり、  
良い意味で、ああ、松下幸之助さん、上甲さん、政経塾、  
この道を選んで間違いじゃなかった！！

税は民主主義の根幹だといいながら…  
税を大事にしていなかったことを自戒し、  
税を大切にすることを肝に銘じて、もう一度やり直そうと、  
税の勉強をし直そうと決意して、どうせなら国家資格とも思い、

税理士の勉強を始めました。

子供たちも幼少で、もう必死で勉強しました。

参院選断念が平成13年。それから2年間で税理士試験に合格して、平成16年11月に税理士開業登録、会計事務所を開きました。この3年間ぐらいが大変だったと言えば、大変でした。

人生でもっとも辛い時期を乗り越えることができたのは、『難を人生の宝に』です！！

---

Q7.今後の志・展望についてお聞かせください。

---

10年ばかり職業会計人として生きてきたなかで、借金してまで税金を納める日本人、それだけに税金を大切に使う社会をとの想いがこみ上げてきます。

先日、国税局の特別整理部の廊下で、顧問先の社長と寂しく待っていたのです。

ポケットに必死の思いでかき集めてきた100万円の束を3つ入れながら廊下で一緒に待っていた時・・・  
図らずも、国会議員の文書通信費の話題になりました。  
毎月100万円の文書通信費、使途公開しないという法律です。

税金を納める側は、使途のわからない領収書のない経費は、一円たりとも認められないにもかかわらず、納税者は7年間も領収書を保管して置かなければいけないのにもかかわらず、税を使う側、税の使いみちを決める側が、使途を公開しない税の使い道があるなんて、私には、どうしても理解できません。

こんなに道理に合わないことがあってよいのでしょうか。

私自身、地方議員として税の使い道を決める側、職業会計人として納税者の代理人たる納める側、という、税の入口と出口を見てきただけに、税の重さが本当に身に染みてわかるのです！

月末は、納税者にとって、借金してでも納税しなければならない辛い日・・・  
25日は、経営者にとって借金してでも社員に給料を払わなければならない緊張の日・・・なのです。

国会議員には、是非とも  
そんな税の痛みのわかる方になっていただきたい。

月末や25日は、国会議員としての歳費がもらえる、  
国が借金してでも期末手当がもらえる日、  
用途を公開しなくて済む文書通信費をもらえる、  
そんな日ではないはずです。

納税者が、ときに借金してまでも支えているのですから…

そんな想いで、今春、「日本納税者協会」を立ち上げました。  
これは、松下幸之助翁が、生前目指されていた夢なんです。  
納得して税金を納めることができる社会をつくろうという…  
あんたら頼むよと、松下幸之助翁の想いを、少しでも形にしていきたい。  
私たち、政経塾に集った同志の根底にある想いです。

国も経営、自治体も経営、会社も経営、人生だって経営です。  
日々、借金を増やそうとして経営をしている人はいませんよね。  
それなのに、日本の国は借金が膨らむ一方じゃないですか。

このまま行ったら日本は持たないと、松下幸之助翁はかねてより唱えられ、  
PHP研究所、そして政経塾をつくり、なのに一向に前進しない。  
責任世代として、子どもたちの世代にツケだけは回したくないです！

私も失敗したことがあるから、痛いほど実感しています。  
税の入口と税の出口を、両方から長年見てきたひとりとして、  
職業会計人として、税の重さを伝えつつ、  
納税力のある、力強く自立した企業づくりに  
貢献していきたいと思っています。

子どもたちにもよく言っているのは、  
自分一人で生まれてきた命じゃないんだと。

長男が生まれる時、2回目の選挙でした。  
選挙を7月に控えていて、5月に家内が切迫流産になりかけて、  
入院して動けなくなってしまったのです。

その時に後援会の方々が、まさに身内のように、  
妻に代わって本当に支えていただきました。

こんなにも応援してくださってと思うほど、  
応援していただいて当選して、  
その3か月後に長男が生まれたんです。

家族のように、いや家族以上に喜んでもらったんです。  
それだけに、子どもたちには、  
決してひとりの力で生まれてきたのではないんだぞ、  
と言い続けています。

今、息子も娘も高校生ですが、  
何のために勉強するのか、勉強し続けるのか、  
何のために職業に就くのかを、よく考えることを大事にしています。

決して、自分のためではないと。  
自分のことだけ、今のことだけ、を考える人生だけは  
歩んでほしくないと、言い続けています。

人生は、自分の人格を少しでも磨いて、  
社会に貢献することが大切なのは。  
勉強を通じて、受験を通じて、学問を通じて、職業を通じて、  
社会に貢献するために生きていくんだと、  
そんな心が伝われば嬉しいかぎりです。

私自身、今、四谷倫理法人会の会長も務めていますが、  
家庭は、仕事のうえでの聖堂というくだりがあります。  
仕事と家庭はすべてつながっているということですね。  
まさに「企業に倫理を」「職場に心を」「家庭に愛を」ですね。

私などは、とても言えた義理ではありませんが・・・  
あまりにも、親不幸な息子、子不幸な親父、妻不幸な夫ただだけに、  
まさに懺悔のような思いで、倫理の会長も務めています。

家庭を放ったらかして選挙や仕事に飛び回っていましたが、  
それは違うんじゃないかと気づき始めてからは、限られた人生、  
せめて夕食だけは、できるかぎり家族でとることを心掛けているんです。

遅ればせながら、「五十にして天命を知る」ですかね。  
50歳以降になって気がつきつつありますね。

---

Q8.山崎泰氏のスターリィマンは誰ですか？

---

亡父であり、松下幸之助翁ですかね。

亡父や松下幸之助翁から教わった“生き様”には、  
決して外れないように生きていきたいと思っています。

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
☆第14話の第3章は、12月9日(火)配信予定です！

---

山崎泰氏の家族の原風景はいかかでしたでしょうか？

お父様の後姿は、まさに山崎先生の  
スターリイマンの姿そのものだったんですね。

だからこそ、その背中を追いかけて、  
松下幸之助氏に出会い、上甲先生に出会い、  
多くの出会いを糧に志に生きている  
スターリイマンなのだと思います。

12月14日は、衆議院選挙。  
今を生きる私たちは、日本の未来に  
どのような志をつないでいけるのでしょうか？  
その未来は、子ども達が輝く夢を叶えられる日本でしょうか？

先人たちの心の声に、そっと耳を澄ませながら、  
今一度、自分自身に問いかけてみたいと思います。

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」の  
第14話の第3章をお送りさせていただきます。

配信は、12月9日(火)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

10月下旬よりご案内させていただいておりました  
2015年のスターリイマンカレンダーは  
おかげ様で、完売いたしました。

多くの皆様にご支援いただきまして、  
本当にどうもありがとうございました！

カレンダーに登場する9匹の動物たちのお話を  
ISFネットグループさんでのクリスマスイベントで  
朗読させていただく予定です。

今後どこかで皆様にもお聴きいただけたら嬉しく思います。

それから、このメルマガの第6話にご紹介いたしました  
鬼澤慎人氏が故郷・茨城県で始められた  
「いばらきドリームプラン・プレゼンテーション」が  
本日、13時より水戸市で開催されます。  
<http://ibaraki-drepla.sakura.ne.jp/schedule/>

娘は、毎年コメンテーターをさせていただいており、  
朝から張り切って出かけていきました。

茨城県は、私の故郷でもあります。  
どんな夢が語られるのでしょうか？楽しみです。

それでは、皆様も夢いっぱい素敵な日々をお過ごしください☆

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.12.09 vol.43

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

だいぶ冷え込みが厳しくなってきました。  
皆様、お変わりございませんか？

おかげ様で、私たちは3人とも  
風邪も引かず元気に頑張っております。

今月1日より、ISFネットグループさんの  
クリスマスイベントツアー中☆

先週は、札幌、安城、呉、大阪の皆様と  
素敵なクリスマスを過ごしてまいりました。

札幌 <http://www.isfnet.co.jp/blog/?p=5463>

安城 <http://www.isfnet.co.jp/blog/?p=5475>

呉 <http://www.isfnet.co.jp/blog/?p=5479>

そして昨日は静岡県沼津へ、本日は新潟へ  
娘はにこにこ出かけて行きました。  
私と主人も、11日～13日に沖縄で合流します。

また、12月1日は鹿島神宮の新大祈禱殿に、  
3点の作品をご奉納させていただきました。

当日は鹿島宮司様をはじめ、皆様に喜んでいただいて、  
来年3月1日(日)には、素晴らしい新大祈禱殿にて  
朗読公演を盛大に開催していただけるようになりました。

詳細は、追ってご案内させていただきますね。

それでは、本日は「今を生きるスターリイマンの物語」  
第14話 第3章～山崎泰氏のスターリイマンへの感謝の風船レター～  
をお送り致します。

最後まで楽しんでいただけましたら嬉しいです。

---

☆第14話「今を生きるスターリイマンの物語」  
～志で国民が納得して納税できる社会を創生する～  
JSKグループ・TFS国際税理士法人 理事長  
日本納税者協会 共同代表 山崎 泰 氏

---

第3章 ～山崎泰氏のスターリイマンへの感謝の風船レター～

---

私にとってのスターリイマンは、亡父。

父は職人気質で、  
あまり多くを語りませんでした、  
男としての生き方、生き様を、  
背中で、教えてもらいました。

小さくても、真面目に仕事をし続ければ、  
生きていけるということを、  
父の背中から教わりました。

亡父の葬儀の最後、喪主としての挨拶に立った時・・・

親父が座右の銘のように大切にしていた上杉鷹山の言葉

「為せば成る 為さねばならぬ  
何事も ならぬは人の 為さぬなりけり」

にふれながら、  
親父の生き方にだけは外れないように生きていくことを、  
心のなかで誓いながら、涙が止まりませんでした。

そして、齢85歳にして、  
「日本の将来が心配で、夜も眠れん・・・」と言われた松下幸之助翁。

あまりにも偉大すぎて、  
スターリイマンというには、  
おこがましいのですが・・・

「経営の神様」にふれさせていただくことができたのは、  
なよりの生涯の財産。

晩年、茅ヶ崎の松下政経塾までお出ましいただくことは叶わず、  
大阪の松下記念病院をお尋ねして、お目にかかりました。

病室を出られ、車いすから降りて、  
ゆっくりと私どもの待つ部屋に入ってください。

喉仏が大きく、話される前にお茶をグッと飲む音をも、  
胸に付けたピンバイクが拾うのです。

その、お茶をグッと飲む音にすら、  
なにか意味があるのでは・・・

「経営の神様」に、すべてを学ぼう、  
そんな思いで、塾生時代を過ごしました。

まさに、私自身が生きていく指針を与えていただける、

この方の思いにだけは、少しでも近づいていきたい・・・  
そんな“星”のような存在です。

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
☆第15話の第1章は、12月19日(金)配信予定です！

---

山崎氏のスターリイマンへの感謝の風船レターは  
いかがでしたでしょうか？

親とは本当にありがたい存在であると  
改めて思い起こされるような山崎氏のお言葉。

父の背中、母の胸で育まれる家族の原風景こそ、  
自分の今を生きる原点があると、いつも私は思っています。

何かに迷い、何かを見失ったら、  
私は原点に戻ることにしています。

原点に立ち戻り、自分自身のスターリイマンに気づくと  
自然と明日への力が湧いて来るような気がします。

今日の日までの「私」につながっていく  
大切なことに気づかせてくれる瞬間。  
慌ただしいこんな今だからこそ、  
見失わないようにしたいと思います。

あなたのスターリイマンは誰ですか？

師走の透き通った夜空を見上げ、  
思っていただけたら嬉しいです。

さて、次回から「今を生きるスターリィマンの物語」の第15話として、東日本大震災を通して出会ったご住職で芥川賞受賞作家でもある玄侑宗久氏をご紹介します。

配信は、12月19日(金)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

日々の出来事を振り返ることもなく、  
次の予定に向かってバタバタと過ぎてゆく日々。

そんな自分を反省できるのは、  
このメールマガのおかげです。

毎回お読みいただいている皆様のお顔が思い出され、  
そして、改めて自分自身の描いている  
スターリィマンってどんな存在なのだろうと  
考えるきっかけとなるからです。

皆様、本当にありがとうございます。

来年の夏まで、インタビューのOKもいただいて、  
段々と私のライフワークの一つになってきました。

今日より明日を、現在よりも未来を輝かせられるように  
今日を精一杯。感謝の気持ちで生きてまいりたいと思います。

それでは、いよいよ12月も中盤を迎えます。  
皆様が笑顔で年末を迎えられますように…  
くれぐれもご自愛くださいね。

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP：http://www.dream-hasegawa.com  
blog：http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/

---